The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	短期留学受入プログラムOUSSEPの現在 : 大学統合・30万人時代のなかで
Author(s)	近藤, 佐知彦; 豊野, 由紀子
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集. 2009, 13, p. 83-104
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50684
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

短期留学受入プログラムOUSSEPの現在
― 大学統合・30万人時代のなかで ―

近藤　佐知彦*・豊野　由紀子**

要　旨

本報告は大きくふたつに分けられる。前半では、本学において二つの短期留学プログラム、旧大阪大学のOUSSEPと旧大阪外国語大学のMapleとが、大学統合にともない、どのような形で運営されるようになったか。その経緯を記録として残す。後半では、そのうちの一つで留学生センター内において運営されている、英語による交換留学プログラムOUSSEPの現状について記す。

【キーワード】短期プログラム、大学統合、OUSSEP、Maple、OUSSEP-Maple

1　はじめに

平成8（1996）年秋期からに運用を始めたOUSSEPでは、2008年秋学期に始まった13期には、世界19ヶ国の27大学から、39名の学生を迎えており、協定校からの信頼も厚く、本学の短期留学生受入システムの中核として機能し続けている。

最近、大阪大学と旧大阪外国語大学との統合などがあり、プログラム運営についても多少の異動や混乱があったため、その経緯を含めOUSSEPプログラムの近況について記録した。また続けてOUSSEP 13年の歩みについて、一覧できる資料を付す。

2　「英主日従」と「日主外従」

まず今後数節の記述については、前もってお断りしておかねばならないことがある。記述された事実関係は、旧大阪大学側の留学生センター教職員である筆者らが認識していることをもととしており、多少の誤りがあるかもしれない。これらの認識は後述する旧外大側関係者との間の折衝を重ねる間に、徐々に形成されてきたものであり、参考文献などとして、キチンとまとめられたものに依拠しているのではないことは、まずお断りしておかねばならない。

旧大阪外国語大学における短期留学プログラムは「Maple」と称され、OUSSEPに遅れること3年、1999年から運用されている。このプログラム設置の主要な目的は、旧外国語大生の旺盛な海外留学意欲（いわゆる派遣）を満たすためことにあった。活発な学生派遣のためには、それに見合うだけの活発な受入を行わなければならない。ただしそこには落とし穴があった。外国語大学外国語学科の主なミッションは、日本人学生に外国語および外国文化を教えることにある。一方外国語大学に短期留学生として派遣されてくる学生は、外国語大学から現地語・現地文化を学びに派遣されて行くのと対応して、当然のことながら、日本語や日本文化を専攻するものがほとんどである。つまり、協定大学から旧外国語大学に期待されているのは、交換留学生に対する日本語教育もしくは日本文化に関する教育であった。

そのため、大阪大学で実施されてきたプログラムであるOUSSEPなどと比べた場合、外国語大学のMapleは二つの顕著な特徴を持った短期留学受入システムとして運営されていたように思われる。

第一に「交換留学」を実施したいと望んでいるのは外国語学部であるにもかかわらず、外国語学部には日

* 大阪大学留学生センター教授
** 大阪大学留学生センター職員

本語を教えるカリキュラムやスタッフがそろっておらず、いきおい受け入れた学生の教育については、学内別部局である日本語日本文化教育センター（以下日日センター）に委ねることになっていた。つまり学生受入の主体は外国語学部であるが、受け入れた学生に対する教育の実施主体は日日センターである。

Maple は全学プログラムであったが、旧外国語大学においては「全学」とは、外国語学部（研究科）と日日センターの二部局であり、実質的に「外国語学部のために日日センターが運営している日本語教育プログラム」という性格が強かったように思われる。

15 単位を必修にした中で、大部分（13 単位）は日日センターから提供される日本語科目をもって充て、履修に日本語を要しない、という短期プログラム（以下短プロ）の要件を満たすため、ごく一部（2 単位）を外国語専門科目（外国語学部提供）でまかなっており、短プロとしては変則的なプログラム運営を行ってきていた。以後本稿ではこの日本語科目・専門科目の割合・比率については「13+2」のように簡略化して表現する。

旧阪大の OUSSEP では「履修・単位取得に日本語を要しない」という短プロ要件を「英語による専門授業の提供」「英語プログラム」の構築という、いわば正面突破をもって満たそうとしていた。それに対し、旧外国語大の Maple では、異なったアプローチをとっている。学生達が一番学びたい日本語科目を入門レベルから提供し、一部に日本語以外の専門科目をその学生の母語の外国語で提供する。それによって、日本語を主に履修するにもかかわらず、日本語未習学生をも受け入れる体制を整えたとして、「履修に日本語を要しない」という条件をクリアする、いわば搦め手から設計された短プロとなっていた。

単純化すると、限定的だが日本語学習ができる旧阪大の英語による交換留学プログラム OUSSEP が「英主日従」のプログラムだとすると、Maple は「日主外従」の短期プログラムであったともいえる。

少し触れたが、外国語大学の交換留学事業では、実質的に派遣のみを行う外国語学部と受入専業の日日センターという構図が出来てしまっていた。しかし全国の大学の学部国費留学生に対する予備教育や日本語日本文化研修生プログラム運営を主要なミッションとする日日センターで、Maple の運営は主要な位置づけとなっていない。Maple 受入による日日センターの負担増については、派遣先確保という受益者である外国語学部との間で、非常勤講師等を雇用するための予算の移管、と言うような具体的な形で埋め合わせを行っていたという。

外国語学部から見れば派遣増大のための受入増大策、日日センターから見れば、非常勤講師予算などを措置して貰う見返りに「外国語学部のために運営している」プログラムであった Maple だが、統合に伴って外国語学部からは「運営実務の出来るスタッフが統合に伴っていなくなる（具体的には外国語学部国際室が消滅する）」、また日日センターからは「プログラムの運営主体は外国語学部であり、日日センターは教育プログラムを提供するが、コーディネーションは業務ではない」という指摘・要望があり、その運営が宙に浮くことになった。

一方、派遣留学に力点を置く外国語学部としては、派遣先からの要望が多い「日本語教育」を核とするプログラムがどうしても必要である。また JASSO から支給される奨学金の「短期プログラム枠」を確保しなければ、日本留学を実現できない国や地域もあることから、プログラム枠を申請できる「短期プログラム」として、Maple を運営し続けることが箕面の関係者から強く望まれていた。

部局分散で受入を増やす、と言う選択肢もあるはずであるが、系統的に日本語を学ぶことが出来る Maple については、需要も大きく、実績もあり、派遣戦略上も欠くことが出来ない、という判断が箕面キャンパスにおいては支配的であった。

2007 年 5 月の「統合推進協議会国際交流専門部会」の下で、阪大留学生センター長（当時）の古城紀雄教授をヘッドとして、短期留学プログラムについての「サブワーキング③」が結成されていたが、その席で日日センター、外国語学部、留学生センターの担当者が顔を合わせ、それぞれが抱える情報を提供し、要求を述べる中で明らかになったことである。

旧阪大と旧外国語大。ふたつの大学が全く違うカルチャーや目的で短期留学プログラムを運営してきたことが明らかになり、箕面キャンパスと吹田・豊中キャンパス間のプログラム完全統合は、多難であることが予想された。しかしそれまでのところ各大学からJASSO（日本学生支援機構）に対して特別枠としてプログラム申請できるのは1プログラムのみであり、旧Mapleプログラムへのプログラム枠の奨学金を確保するためには、何らかの処置をとる必要がある。

統合を数ヶ月後に控えた2007年5月の段階で合意に達し、統合推進協議会に報告されたのは以下の事項であった。

1. Mapleは日本語・日本文化を集中的に学びたい外国人短期留学生を対象として、大阪大学全体の枠組みの中で継承される。すなわち、現Mapleと現OUSSEPは大学全体としての新OUSSEPとして統合されて引き続き実施されることとし、この新OUSSEPのコーディネーションは留学生センターの留学生交流指導部門短期留学担当が行い、事務は学生交流推進課で行う。

2. 新OUSSEP-Mapleのカリキュラム内容についてはあらたに実施方針を検討する。

3. 新OUSSEP-Mapleにかかる日本語日本文化科目は日本語日本文化教育センターによって提供される。その他の短期留学生の日本語科目は留学生センターにより提供される。ただし、現OUSSEPにおける日本語学習重点学生（OUSSEP-AJLs）及び現Mapleにおける日本語学習未修学生などについては短期留学の実があがるように両センターが協議しつつ適切に対処する。

4. 本国際交流専門部会及びサブワーキングとは別に、留学生等対象の日本語教育並びに短期留学について、両大学統合後に配慮することが必要な問題についての協議を、旧外国語学部（旧課程学生が在籍する間）、日本語日本文化教育センター及び留学生センター並びに両大学の事務担当者も含めた実務者間で開始できる体制を作る。

このようにMapleについては「英主日従」のプログラム（OUSSEP）の傘の下に日本語を主とするプログラムを入れて再設計する（OUSSEP-Maple）方針が決められた。

また当報告で明言されているわけではないが、サブワーキングでは、英語を主とするプログラムは阪大留学生センター、日本語を主体とするなら日日センター、でそれぞれ引き受けるという役割分担が前提となっていた。

なお「3.」についてだが、留学生センターでは日本語を主とし、専門科目も学ぶことの出来るOUSSEP-AJLs (OUSSEP for Advanced Japanese Learners) というプログラムを運用していた。これを新OUSSEP-Mapleへと統合することを指している。この扱いは、旧阪大で行われていた日本語日本文化研修生プログラムを、旧外大の日日センタープログラムへと一本化したこととも軌を一にするものだった。

なお「セレンディピティ」によって後節で説明する劇的な展開に備えていたむきもあったらしいが（北浜2008）、異なった文化の下で育ってきたプログラムを統合させる試みは、実務者の間で長時間の検討を強いることになり、産みの苦しみを味わうことになる。

3 「日主外従」から「日主英従」へ

上記方針を承け2007年6月頃から留学生センター、日日センターおよび外国語学部関係者が引き続いて月に一回程度集まり、実務者会議を持つことになった。

まず実務者間では、2007年10月の大学統合時には両プログラムを箕面キャンパスおよび、吹田・豊中キャンパスで分離したままで暫定的に運営するということが申しあわされた。これは10月期から開催される交換留学プログラムは、年初よりプログラム概要を協定校に示しており、その年の3月もしくは4月期に募集を確定していたためである。すでにプログラム

として動き出しており、咄嗟の対応は出来ないという判断があった。そこで新 OUSSEP と新 OUSSEP-Maple を統合してのスタートは 2008 年 10 月と決められた。

前節統合推進協議会報告で、コーディネーション担当となった留学生センター短期留学担当は、実務者協議の場で、新 OUSSEP-Maple はこれまでの「日主外従」の設計を改め、採用の条件に日本語を問わず、また日本語を要せず単位を得ることが可能、という「短プロ」本来の姿に近づけるよう強く要望している。

また教育部分についても、日日センターにおける日本語部分も含め、国際交流科目として単位を出すことで、交換留学受入プログラムとして新 OUSSEP-Maple を再設計することになった。その上で新しい阪大における新 OUSSEP-Maple と、新 OUSSEP との間で阪大に割り当てられる 2008 年度の「短プロ枠」奨学金を分け合う、という申し合わせが行われた。

まず Maple を「短プロ」の定義にあうよう、再設計して新 OUSSEP-Maple とすることについては、留学生センターサイドから、プログラムデザインの改革を強く求めた。様々な話し合いを重ねた結果、以下のプログラムデザインに落ち着いた。

① 応募の要件として英語プログラム OUSSEP と同様に、TOEFL550（PBT）を課し、スコアの提出を求める。日本語の学習歴は問わない。
② 修了要件を各セメスター 15 単位とし、そのうち 7 単位を日本語科目、8 単位については英語等で行われる国際交流科目で履修させる。

以上 2 つの条件から、新 OUSSEP-Maple は参加や履修そして単位取得に日本語能力を要しない英語プログラムである、という実質を満たし、「短プロ」としての体裁が整う。また日本語の要求単位を修了単位の過半以下に抑えることで、取得単位からみれば日本語の学修負担は半分未満（15 単位中 7 単位）となり、本プログラムが日本語学習のためのプログラムではなく、また学修や単位取得に日本語能力を要求しないことが条件とされる JASSO 奨学金の「短プロ枠」申請も差し支えない、と言う解釈が成り立つ。苦心の妥協案だった。

ここで一つ、個人的なエピソードを紹介したい。旧外国語大側では旧 Maple を踏襲させ、新 OUSSE-Maple でも「13+2」を希望していた。そこである会議の席で留学生センター担当者からは「旧外国語大と同じプログラム設計だった場合、JASSO もしくは文科省によって、『13+2』のプログラム設計が著しく日本語学習に偏っているとして、『短プロ』たり得ない、と問題視された時にはどう対応するのか。旧外国語大からどなたかが釈明をしていただけるか」という点を糾した。

ところがその点に関して、外国語学部および日日センターからは一切前向きなお返事を頂けず、結果として「13+2」というプログラム設計については、どなたも責任を持っていただけないことが露呈した。その結果として、留学生センターから対案としてだした「7+8」をもって新生 OUSSEP-Maple の基本的構成とすることが決められた。

言わずもがなの補足をするとすれば、語学系科目は 1 コマ 1 単位であり、専門的な国際交流科目は 1 コマ 2 単位である。したがって日本語授業については週 7 時間、国際交流科目については週 4 時間の学修で、「7+8」の履修要件を満たすことになる。日日センターから英語による日本文化科目が提供されることと考え合わせれば、日本語や日本文化を集中的に学ぶプログラムとして、新 OUSSEP-Maple は日日センターを中心として運用することも可能である、と判断された。

これらの経緯を持って、2008 年度の OUSSEP-Maple は、日本語・日本文化教育をカリキュラムの中心に置くものの、日本語の学習歴は一切問わない、いわば「日主英従」の日本語日本文化専修英語プログラムとして運用されることが決まった。前節で紹介した統合推進協議会下の「サブワーキング③」からの答申「Maple は日本語・日本文化を集中的に学びたい外国人短期留学生を対象として、大阪大学全体の枠組みの中で継承される。すなわち、現 Maple と現 OUSSEP は大学全体としての新 OUSSEP として統

合されて引き続き実施される」という文言の中身が、Maple も広義の英語プログラムとして再設計する、と言うことで確認されたわけである。

ただし問題が一点あった。

世界各地の言語や文化を学ぶ外国語大学という性格上、これまで旧外語大が派遣してきた大学は英語圏に限らない。そして受け入れてきた学生も英語が必ずしも得意というわけでなく、参加学生が TOEFL550 (PBT)に達しているとは限らない。日本語学習意欲があり、そして英語が十分ではない学生をどのように新プログラムの枠組みで受け入れるか、と言う問題が生じたのである。

これまでそれらの学生は「13+2」の「2」の部分をそれぞれの母語等で授業を受けさせることで、Maple が短プロとしての体裁を整えていたことはすでに触れた。仮にこれらのカテゴリーの学生が英語力不足を理由として受入不可となった場合、それらの言語を専門とする新大阪大学・外国語学部の学生は、派遣の機会を奪われることにもなる。

そこで OUSSEP-Maple では、最前の二項に加え第三の条件を申し合わせて、旧外国語大の Maple との整合性・継続性を担保することにした。

③ ある地域言語専攻が 8 単位分に相当する国際交流科目を提供する限りにおいては、その国際交流科目をもって英語等で行われる国際交流科目に代え、その地域言語を母語とする応募者には英語要件（TOEFL）を課さないことを得る。

かみ砕けば、新 OUSSEP-Maple の基本構成である「7+8」に関して、ある言語専攻が 8 単位分（4 コマ分）の専門科目を国際交流科目として提供すれば、英語で提供されている専門科目に代えてその国際交流科目を履修させ、日本語科目とあわせることで、1 セメスターあたり 15 単位分のワークロードを確保することが出来る。したがって、「日主英従」の OUSSEP-Maple カリキュラムのうち、「英」にあたる 8 単位分の英語科目を地域言語の科目にそっくり置き換え、「日主外従」へと衣替えさせることになる。

結果としてその言語を母語とする大学からの応募者に対しては、TOEFL 等の英語資格がなくても応募を受け付けるとした。したがって新 OUSSEP-Maple は「日主英従」のプログラムとして設計されているものの、特定の言語を母語とする応募者にとっては旧 Maple と同様、英語能力がなくとも応募可能な日本語日本文化プログラムとしても運用できる。

新・大阪大学における外国語学部の事情を考えれば、派遣意欲が強い言語の専攻は受入実績も必要となるので、OUSSEP-Maple に対して専門科目を提供するインセンティブが働く。そして具体的に受入プログラムの充実に貢献する地域言語の講座に対しては、より高い確率で奨学金が付与されうる、と言う相乗効果も期待できる。

結果的に九つの地域言語専攻が専門科目を提供し、それらの言語を話す国からの OUSSEP-Maple への応募は英語要件が免除されることになった。なお英語要件を免除された地域言語とは、アラビア語、ヒンディー語、ハンガリー語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、スワヒリ語、タイ語、ウルドゥー語となっており、それらの国からの応募者については TOEFL スコアの提出が免除された。

3　JASSO への複数プログラム申請へ

2007 年 10 月に大阪大学と大阪外国語大学が統合され、新「大阪大学」が誕生した。この時点までに合意に達していたのは、OUSSEP-Maple を前記「7+8」の「日主英従」の英語プログラムとして再設計するという点のみといってもよく、2008 年度の募集が始まる時期が近づくにつれて、どのように募集事務を進めるか、また JASSO への申請のやり方などについて、実務関係者の間でも焦慮の色が濃くなった。

そこで国際交流委員会・短期プログラム運営部会のもとに OUSSEP-Maple 検討ワーキング（以下 WG）が設置され、留学生センターで短期留学を担当してきた北浜榮子教授が主査となっている。

第一回の会議は統合間もない 11 月 7 日に開かれ、経済学研究科、基礎工学研究科、言語文化研究科、大

学教育実践センター、グローバルコミュニケーションセンターなどからの委員の参加も仰いだが、その後1月9日まで、6回ほどもたれた会議には、日日センターと留学生センターからの出席者のみの会議が多く、実質的には二部局間でのプログラムマネージメントの最終調整という色彩の強い会議となっていた。なおこのWGはOUSSEP-Mapleの立ち上げに関しての調整にあたり、プログラムが無事に立ち上がった暁にはその運営は短期留学プログラム運営部会に移管されることになっていた。

12月には募集要項等を作って協定校等へ通知せねばならない、と言う時間的な制約をはめられながら、二つのセンターでの話し合いが進められていったが、正直言ってこの頃が一番苦しい時期となった。各人・各機関が理想とするプログラムデザインがあり、それぞれのプログラム運営や教育成果について自負があるものを、大学統合というまことにやむを得ない事情があるとは言いながら、同じプログラムとして統合されることには強い抵抗があった。

前節で触れた「7+8」の「7」の部分を日日センターが関わり、また「8」の大部分も日日センターが関わる一方、九つの地域言語科目も学国語学部によって提供されることになっている。ところが外国語学部と日日センターの時間割調整などについては、外国語学部、留学生センター、日日センターのいずれがその調整の任に当たるかなど、問題が山積されていた。

会議は頻繁に開かれるものの、事態が打開しないまま時間を空費する状況となる。留学生センター担当者はOUSSEPのみならずOUSSEP-Mapleの責任を持てと言われている立場であり、胃の痛くなるような時間が過ぎていった。普段であれば募集要項などをまとめ協定校に通知する準備にかかる時期なのに、OUSSEP-Mapleが「7+8」のプログラムとするという合意のみが存在して、それ以上の細部は決まらず、一向に広報できるレベルに達しない。また旧外国語大側では旧Mapleを再編して「7+8」の短期プログラムにすることには合意していたものの、箕面キャンパス内での外国語学部と日日センターの間で時間割調整が進まなかった。ワーキング座長の勧告にもかかわらず、堂々巡りの議論が続くだけであった。結局は箕面のコップの中の嵐について、吹田の関係者もあえて手を出すことをせず、したがって誰も主体的に動くことがない、という停滞に陥っていた。11月中の会議はそのようなやり取りで空費したが、12月に入ると俄然空気が変わる。

それはJASSOによる「短期留学推進制度（受入れ）」の運用が変更されて、「留学生交流支援制度（短期受入れ）」となったことである。タイトルとしては小変更ではあるが、プログラム運営のためには強烈なインパクトがあった。それは文部科学省主導のもと、奨学金獲得競争の色合いが濃くなったことである。

今までは履修や単位取得に日本語を要さないプログラム、いわゆる短期留学特別プログラム（短プロ）を対象に設けられていたプログラム枠が拡大され、一つの大学から複数プログラムを提案できることになった。しかもその中身についても、日本語能力を要しないことが条件となる「短プロ型」のみならず、UMAPやダブルディグリーなど特別な単位互換の枠組みを使った「単位互換型」、そしていずれにも分類されない「その他」など、3つのタイプのプログラムを設計し、各大学から最大4プログラムまでが提案できることに変更された。JASSOでは各大学から提案されたプログラムについて審査をし、プログラムとして認可するかが決められる。そして認可した上でも、プログラム設計や支援体制整備の優劣によって、付与する奨学金数を決定されることになった。大まかに言えば、横並びの短プロから、競争原理が導入された短プロへの転換である。

そしてこの新たなスキームの導入は、大阪大学においては、外国語学部、日日センター、留学生センターの三者の間で膠着していた非生産的な議論を吹き飛ばす「神風」にもなった。異種のプログラムを無理に一つに纏めなくても構わないのだ。

このニュースを受け、12月18日の第五回WGの席ではOUSSEPおよびOUSSEP-Mapleのふたつのプログラムは、留学生センター・日日センターとそれぞれが主担当となってデザインをおこなうことで決着した。プログラムのデザインをした部局がそのプロ

グラムに責任を持つのが当然の帰結であり、実質的にはこの時点で留学生センターがOUSSEPに、日日センターがOUSSEP-Mapleに、とそれぞれの運営が分割され、OUSSEP-Mapleに関してWGの役割はほとんど終わっている。

ただ関係者として残念だったのは、JASSOの新スキームという「神風」によって膠着状態に終止符が打たれたものの、単科大学の中で行われてきたMapleを、総合大学の全学プログラムとして運用していくため、どのような形態をとるべきか、そのための共通認識が全く育たなかった点にある。結果的には、真に全学に貢献するプログラムとしてOUSSEP-Mapleを育てていくという問題意識と方策とが共有できないままとなったうらみが残る。

4　JASSO申請と結果

先の第五回WGでの論議を受け、OUSSEPに関する申請書は留学生センター側で、OUSSEP-Mapleに関する申請書は日日センター側で引き取って、それぞれの書類を完成させることになった。当初の申し合わせとは異なるものの、実質的には別物のプログラムとしてデザインされ、年開け早々に短期留学プログラム運営部会でそれぞれが承認され、JASSOに対して申請を行うことも決められた。結果的に本学から申請されたのは計4プログラムであったが、本稿では煩雑を避けるため、OUSSEPおよびOUSSEP-Mapleに焦点を絞って報告する。

まずOUSSEPは日本語名を「国際教養・専門複合型教育プログラム」として申請、OUSSEP-Mapleは「日本語日本文化特別プログラム」として、それぞれのキャラクターを明らかにし、どちらもが「短プロ枠」で申請をしている。この時点でOUSSEP-Mapleは選考や単位取得に関して日本語能力を問わない種類のプログラム（「短プロ」として）と宣言したことになる。

なおOUSSEPは「大阪大学短期留学特別プログラム」の英略称として、この言葉を用い、ブランド化してきたものであるが、これは特定のプログラムを指すと言うより普通名詞であり、この際プログラムの性格を表す呼称を日本語で用意した。ただし一般的にはOUSSEPのままで運用を続けており、海外協定校に対してもすべて連絡等はOUSSEPで通している。本稿においてもそれに従う。

OUSSEPでは、そのプログラムの「目的・目標」について以下の様な記述を行い、定員を30人として短プロ部会に申請し、そのままJASSOに提出されている。

過去の実績を踏まえ、また総合大学としての特質を活かしつつ、協定各大学から期待される高度のリベラルアーツを提供する。全学から国際交流科目（国際交流委員会が所管する英語を主とする外国語授業）の提供を仰ぎ、交換留学生に大阪大学の単位を発給するプログラムである。日本語の習得については限定的となるが、各学生の専門分野についての学習、ならびに幅広い教養の習得を通じ、非日本語環境の中で日本及び近畿・大阪に親しみを持つ国際人の養成を目指す。

一方OUSSEP-Mapleは、以下のようにプログラムの性格付けを規定し、定員は40人となっていた。

本プログラムは旧大阪外国語大学の短期留学特別プログラム（平成11年度開設時定員20名、今年度受入実績53名）を新生大阪大学において発展的に継承するもので、海外での日本の社会文化に対する関心が高まる中、急増してきた日本語日本文化の専修を希望する留学生を教育対象とし、比較対照的視座から日本を多面的に理解できる人材を育成することを目的とする。ここでは英語による日本研究科目および外国語による比較研究科目を通じて日本の言語・文化に関する幅広い専門知識を吸収しつつ、日本語科目の選択履修により日本語運用能力を高められる、学生の多様なニーズに応えるバランスの取れたコア・カリキュラムを提供する他、英語及び外国語等による日本人とのコミュニケーション活動を重視し、日本人学生と協働してフィールド調査や成

果発表が行える演習形式の授業企業等での社会体験型研修の機会を用意する。

異質なプログラムを一個のOUSSEPブランドの下に統合しようと議論を続けてきた関係者にとっては、それぞれが別個のプログラムとしての目標を掲げ、また別個に運営していく基礎が築かれたことは、膠着状態を打破する意味で有り難いことであった。

またそれぞれのプログラムが上限15個までの奨学金を獲得できる条件が整い、OUSSEPの名の下に獲得した奨学金をキャンパス間でさらに分割する、といった多少明朗さを欠く作業も発生しない。そしてそれぞれが運営する「短プロ」のプログラムデザインを、第一には短期留学プログラム運営部会の場において、また第二にはJASSOにおいて、問われることになり、その結果が獲得奨学金に反映する。JASSO奨学金におけるプログラム枠というカテゴリーの中で、OUSSEPとOUSSEP-Mapleが奨学資金獲得競争をするわけである。

もちろんプログラムの運営においても、そのデザイナーが運用することが当然となり、OUSSEPは吹田の留学生センターにおいて、OUSSEP-Mapleは箕面の日日センターにおいて運営責任を持つことが明らかになった。

それまで宙ぶらりんな状況の中で、プログラム統合の話を進めざるを得なかった双方の教員にとっては、プログラムを無理に統合しなくても良い、ということでその精神衛生も含めて「神風」が吹いたと言えよう。

ちなみにOUSSEP-MapleのJASSO申請書に記された「日本研究科目」「比較研究科目」が、WGにおいて議論が続けられてきた「7+8」の「8」の部分にあたり、日日センターにおいては、WGでの議論の積み重ねを尊重して新プログラムを設計していただいたことが十分に理解できる申請だった。結果としてOUSSEPに15、OUSSEP-Mapleには12の奨学金枠を獲得している。

奨学金獲得数に差がついた理由は分明ではないが、古典的な短プロとして設計されたOUSSEPに比べ、日本語学習の比重が高いOUSSEP-Mapleについては、いわゆる「短プロ枠」には相応しくないと見なされたのかもしれない。その場合「7+8」のプログラム設計でも十全な「短プロ」ではないと見なされていたことになり、仮にJASSOからの奨学金制度が改変されずに、「短プロ枠」が各大学に一つだけであった場合を想像すると、OUSSEPへの奨学金を上限枠いっぱいの15確保できたことは僥倖であったと言わざるを得ない。統合という事情によって、異なった形態のプログラムを複数運営せざるを得なくなった本学にとって、JASSOの制度改変はリスクの分散という意味でも「神風」であった。

5　募集要項から奨学金配分まで

こうしてJASSOの制度改変に伴い、無理なハイブリッド化を避けて、箕面と吹田・豊中で棲み分けることになった二つのプログラムである。しかし2008年度の募集等については学生交流推進課を窓口として、留学生センターの短期留学担当が行うことになった。

これは統合推進協議会での合意事項を尊重したためでもあるし、日日センターからは、本来運営主体が外国語学部であった旧Mapleの運営に対してノウハウの蓄積もなく、自分たちの仕事に入っていない、という声があったことに由来する。

いずれにせよ協定校に対しては通知をせねばならぬため、留学生センターの短期留学担当から旧大阪大、旧外国語大の双方の協定校に対し、12月にはとりあえず電子メールで「pre-announcement」を送付して、コーディネータの責任においてOUSSEPやMapleのプログラムが改編されることを通知した。

引き続いてOUSSEPのカレンダーはOUSSEP-Mapleも加える形で留学生センターにおいて編集、従来のフォーマットに大改訂を施した上で、2月に入ってから協定校に送付している。また願書についてもOUSSEPとOUSSEP-Mapleを共通とした願書を新たに作成、箕面においてこれまで使ってきた独特な推薦状フォーマットなどとともに、一綴りとして学生交流推進課を通じて協定校に配布した。

なお、OUSSEP-Maple部分についてはカリキュ

ラムなどの詳細が決定しないままカレンダーを発行せざるを得なかったため、フォーマットは大幅に変わったが、基本的には従来のOUSSEPのフォーマットに必要な変化をつけた物である。2008-2009期のカレンダーは、そのままでPDF化され、誰でもOUSSEPのホームページで参照可能となっている。興味のある方は是非ともご覧頂きたい。

願書の締め切りを3月20日と設定したものの、実際には遅れて提出してくる大学や、プログラム間の違いをよく理解しないままに提出される願書など、現場では混乱が見られ、学生交流推進課のみなさんにはご迷惑をかけてしまった。しかし出だしの遅れを取り戻すかのように多数の応募を獲得することができた。

従来の旧大阪大親密校で、OUSSEPへの応募を行ってきた大学にとっては、OUSSEP-Mapleという日本語に特化したバリエーションが増えたという認識であり、大きな混乱が生じることはなかったようだ。一方、旧外国語大協定校で、Mapleへの応募を考えていた大学にとっては、新たな枠組みであるOUSSEP-Mapleをうまく理解していただけなかった部分もある。それは各協定校にとって、目的別に留学先を決めているというより、「大阪への留学ならOUSSEP(あるいはMaple)」という風に特定プログラムを念頭に置いて派遣学生の選考を進めており、その基準としては、前年までの交流実績などが尊重されているのだから、ある意味、当然のことではある。しかし統合に伴う新・大阪大としての環境の激変は、前例主義を許さないものであったのも確かであり、そのあたりの齟齬を手当てする時間がとれなかったのは、コーディネータとして悔やまれるところであった。

さて、願書を点検する中で、OUSSEPに応募しているものの、明らかに日本語日本文化の習得を一義的に欲している者、またOUSSEP-Mapleに応募しているものの、留学目的が日本語日本文化以外の専門科目等にあると判断される者に関しては、日日センターと留学生センターの担当者間で適宜調整を行った上で、最終的な両プログラムへの受入学生を確定した。そのためには記入内容に大幅な重複のある統一願書は役に立っている。

そういった調整の結果OUSSEPについては、ブラジル・リオデジャネイロ州立大学、ペルー・ローマ教皇庁立カトリック大学など、ラテンアメリカの学生を初めてプログラムに迎えることになった。またOUSSEP側からはマドリッドアウトノマ大学（スペイン）や、マギル大学（カナダ）の学生について、申請書から読み取れる留学目的からOUSSEP-Mapleの方が適当であろうと判断し、学生・協定校コーディネータの了解を得て、参加プログラムを移管した。これらの学生もそれぞれのプログラムにとっては、初めての協定校からの受入となった。

このあたりは、学生達のニーズを汲み上げ、またプログラム運営上無理のない範囲で、大阪にやってくる学生達に出来るだけ効果的な留学体験を得て貰おうという、担当者達の熱意でもって実現した。

ただし、OUSSEP-Mapleでは奨学金が配分されなかったことに起因する留学辞退が生じた。従来のMapleでは応募時から奨学金の給付について協定校に対し、事前にある程度の調整をし、その年に配分される奨学金数などについて、事前にある程度の「あたり」をつけてきたという。応募者本位と言うより、協定校との緊密性およびプログラム運営の継続性を重視して、必要な事前調整を行ってきた旧外国語大のポリシーである。ところが新・阪大のシステムではすべての応募者のいくつかの項目について得点化し、その得点にしたがって奨学金を割り振っていく方式をとった。そのため、合格通知は受領したものの、奨学金が約束されていない場合は留学できない、といった理由で数人の辞退が出ている。残念ながら2008年度については、システム・ルールを変えるに至らなかったが、今後は経済的には必ずしも恵まれない地域からの留学生にはある程度配慮し、候補者本位の原則とともに、過去の協定校との交流の経緯を配慮した奨学金配分など、バランスのとれた方法を探していく必要があるだろう。限られた奨学金資源を有効に使う手段として、今後とも担当者が胸に刻んでおくべき事柄かと思われる。

6　その後（ふたたびMapleへ）

さてその後のOUSSEP-Maple運営についても、手短に触れておく。

前節までの報告のように、全学プログラムながら実質的な「箕面プログラム」として、OUSSEP-Mapleは日日センターによって運営されるようになった。協定校との連絡など一部のコーディネーションは留学生センターの側でとり続けてきたものの、現実的には箕面キャンパスのみに閉じたプログラムである。その後2008年7月の段階で、日日センター側から「OUSSEP-Maple実施要項」の作成が提議され、その過程で日日センターが全面的に関与するプログラムとして性格が新たにされた。またその後はプログラム名からOUSSEPを除いて、旧外国語大学時代と同じくMapleに改めている。

それぞれのプログラムの運営体制についても、短期プログラム運営部会のもとに、「OUSSEPワーキング」と「Mapleワーキング」を別々にぶら下げる体制となり、結果的には現在のMapleは箕面プログラム、日日センターの部局プログラムとしての性格を強く打ち出してきている。なお新OUSSEPと新Mapleについては、2009年度プログラムについては相互で独立して募集事務を行っており、特に事前の調整・協議などは行われなかった。

結果的には、話し合いを始めた当初はいくら要請しても得られなかった、プログラム運営への日日センターの積極的なコミットメントが得られたことは、短期プログラムを預かるものとしては有り難いことである。

その一方で、全学プログラムとはいいながら、新Mapleプログラムが、一部局で完結する形態で運用されている状況は、多少の懸念が残るところである。特に「30万人時代」で、大幅な増加が予想される日本語習得希望の短期留学生受け入れについて有効な方策がとれるよう、今後、三キャンパスの融合をはかり、全学をあげての議論が必要である、と提言しておきたい。

7　OUSSEPの13年、そして2008年のOUSSEP

さて、本節ではMapleとの顛末を離れ、これまでのOUSSEPの来し方についてデータを押さえつつ振り返ってみたい。

まず13年の間に400人弱の留学生が本プログラムに参加しており、少ないときで22人、多いときでは40人弱が参加している。また応募者の累積は550名となっており、やむなくお断りした学生数も相当数に上る。またJASSO奨学金の支給が少なくなってきたことに伴い、1999年頃から奨学金を得ずとも留学をする学生が増えており、交換留学が学生のアカデミックなキャリアパスの中に組み込まれている事情を伺わせる。それと同時にOUSSEPというブランドが浸透して、自分の金を使ってでも来たいプログラムという定評が出来つつある傍証だと思われる。なお、大学統合に伴いラテンアメリカからの参加者や新規にフィリピンからの参加者もあり、現在までのところOUSSEP空白地区はアフリカ大陸のみとなっている（表1）。

次表ではより具体的な受入数を大学別に記している。アジア各国など数多く国からバランスよく受け入れを続ける一方、北米や豪州など、英語圏からの受け入れを比較的手厚くし、英語圏への送り出しを意識した運営を行っていることが判る。プログラム運営当初1996年1997年にはワシントン大やマギル大からの受け入れが多く、その後テキサスA&M大などからも集中的に受け入れていることが読み取れる（表2）。

表3においては学生校了協定を交わした協定校の国別リストであり、全学協定校69（日仏共同博士課程コンソーシアムと日加戦略的留学生交流促進プログラムコンソーシアムの、2つのコンソーシアムを除く）および128の部局間協定に対して、門戸を開いているプログラムとなっている。そのうち星印（★）を付した大学が、これまでに実際の交流を行ってきた大学となる。

表4においては、2008-2009期のOUSSEP参加者を対象として開かれた英語による授業科目（国際交流科目）の秋学期をリストした。国際交流科目はそれ

ぞれが正規科目としてオンライン登録システムであるKOANを通じて履修登録をすることになっているが、KOANの英語表記が貧弱なため、英語プログラム参加者であるOUSSEP生については担当者が取りまとめて入力している。一方、部局分散学生や正規学生については、KOANを通じての履修登録が行われている（表4）。

授業時間割はそれぞれ月曜日と金曜日を吹田キャンパス、火曜日と木曜日を豊中キャンパスでの授業開講日とし、水曜日と木曜日の午後に箕面キャンパス開講の授業を割り当てた。また日本語科目で異なったレベルの授業を一部重複させたほか、どうしても時間割調整のつかなかった科目については、理系と文系のように受講者の興味関心が重ならないことを見越した上で、やむなく重複を認めている。高度の教養プログラムを標榜するOUSSEPとしては、まことに残念なことではあるが、その一方、全学プログラムとして各部局の利害や時間割を調整しつつ時間割配置をしている関係上、どうにもしようがない部分もある（表5）。

そして講義を履修登録した学生達がその後単位を取得できたかどうかについて、各年次に分けて表に纏めたものが表6となる。伝統的には文学研究科・文学部、人間科学研究科・人間科学部、経済学研究科・経済学部、工学研究科・工学部などが多くの国際交流科目受講者を出してきた経緯が読み取れるが、それにもまして大学統合後に外国語学部の学生達の英語授業科目受講の意欲の旺盛さは、特筆するべきものがある（表6）。この外国語学部学生達のパワーを、将来の大阪大学国際化へのエネルギーに変えていくため、OUSSEPそして国際交流科目の運営は、一つのカギとなるであろう。

8　おわりに

短期留学プログラムの形態が多様化していく中、英語による高度教養教育を主なターゲットとするOUSSEPについても、その内容と参加者の意識、そして協定校からの要望に応えつつ、高いバランスを保ちながら運営されていくことが求められる。

特に2006年以降、それまでは比較的固定的に運用されてきたOUSSEPだったが、学内各部局や協定校の意見も徴し、より短い期間の受け入れや、日本語を中心に学ぶ学生の積極的な受け入れなど、順次拡大されてきた。（OUSSEP検討ワーキンググループ2006）

いわゆる30万人のかけ声の下、OUSSEPを含む短期留学プログラムは、10年に一度あるいは20年に一度の大きな転換点にさしかかっている。この時期、大阪大学の短期プログラムが「波に乗れる」のか「波に呑み込まれるか」によって、大学自体の存亡にも関わるような大きなファクターとなってくる。

ことに大阪大学は大学統合という別のファクターもある。統合によって新たに得られたリソースを活かしつつ、波を捉えて大きく飛躍する切っ掛けを掴みたいところである。OUSSEPとOUSSEP-Mapleの運営統合に関するいきさつは、決して良いスタートラインとは言えなかったかも知れないが、その事実関係をあえて記録することによって、今後のプログラム運営のための指標としたい。

参考文献

OUSSEP検討ワーキンググループ（2006）「大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの今後のあり方に関する検討結果報告書」『大阪大学国際交流委員会』

北浜榮子（2008）「寄稿　大阪大学における最終講義をもとに」『多文化社会と留学生交流』第12号

近藤佐知彦（2005）「新たな短期留学プログラム構築への提言－本学交換留学プログラムの現状とあわせて－」『多文化社会と留学生交流』第9号

近藤佐知彦・北浜榮子（2004）「大阪大学短期留学特別プログラムOUSSEPの現状と英語授業普及・大学国際化への提言」『多文化社会と留学生交流』第8号

近藤佐知彦・渡部留美（2007）「大学における留学生・研究者のためのオンラインコミュニティGCN（Global Campus Net）Osakaの運営現状と課題」『多文化社会と留学生交流』第11号

表1

受入の状況	学生を受け入れた年													累積
	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
学生の在籍大学の数	6	11	15	19	22	24	23	27	29	22	31	27	27	58*
国の数 (学生の在籍大学)	5	9	11	15	14	16	14	15	15	16	19	17	19	26
学生の合計	22	22(1)	26(2)	28(2)[2]	27(2)[3]	28(2)[2]	33(3)[6]	33(3)[4]	33(3)[9]	25(2)[10]	37[27]	38(4)[20]	39(2)[17]	391[100]
北アメリカ	13	9	9	7	6	8	9	6	7[1]	5[1]	7	12	8	106
ラテンアメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
アジア・オセアニア	9	9(1)	9(1)	10(2)	11(2)[1]	9(2)	11(3)[1]	14(3)	12(3)[1]	10(2)[3]	15	13	18	150
ヨーロッパ	0	4	8(1)	11[2]	10[2]	11[2]	13[5]	13[4]	14[7]	10[6]	15	13	11	133
男女比（男子/女子）	12/10	11/11	19/7	19/9	14/13	14/14	15/18	16/17	18/15	11/14	20/17	21/17	18/21	208/183
学生の専門分野 (文系/理系)	20/2	12/10	13/13	17/11	13/14	18/10	17/16	17/16	17/16	12/13	22/15	16/22	21/18	215/176
応募の状況	応募を受け付けた年													累積
	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
応募学生の数	24	56	41	36	43	38	40	37	47	41	51	48	48	550
応募学生が在籍する 大学の数	6	15	19	19	25	25	26	27	30	30	33	30	33	61
国の数 (応募学生の在籍大学)	5	11	13	15	16	17	16	15	17	19	20	20	21	31

当該年の春学期から秋学期から受け入れた学生数
( ) 内の数字は当該年の春学期から受け入れた学生数（通常は秋学期から受け入れる）内数。
[ ] 内の数字はJASSOの奨学金をもらっていない学生の数。内数。

表２　在籍大学所在国別･在籍大学別：OUSSEP 留学整数の推移（1996 年秋学期－2008 年秋学期）

No	国名	大学名	入学年													合計（大学）	合計（国）
			1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008		
1	台湾	国立成功大学												3(1)[2]	2(1)[1]	5(2)[3]	5(2)[3]
2	中華人民共和国	武漢大学			2	3	2	1	2	2	2[1]	0	1[1]	0	0	15[2]	27[5]
3		南京大学									1	1	2[1]	2[1]	1	7[2]	
4		西安交通大学											2[1]	1	0	3[1]	
5		上海交通大学													2	2	
6	香港	香港科学技術大学											1[1]	2(1)[2]	1[1]	4(1)[4]	4(1)[4]
7	インドネシア	ガジャマダ大学							1	2	1	1	1	0	2	8	8
8	大韓民国	釜山大学校	3	2	2	3	1	1	2	1	1	1	1[1]	1	1	20[1]	50(2)[10]
9		嶺南大学校法科大学	2	1	1	1	1	1	1[1]	0	0	0	1[1]	0	0	9[2]	
10		忠南大学校					1	1	1	1	0	0	1(1)[1]	2(1)[2]	0	7(2)[3]	
11		東亜大学校					1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
12		ソウル大学校							2	2	0	0	0	0	2	6	
13		延世大学校									1	1[1]	0	0	0	2[1]	
14		全南大学校									1	0	1[1]	0	1	3[1]	
15		慶尚大学校											2[2]	0	0	2[2]	
16	モンゴル	モンゴル国立大学						1	0	0	0	0	1[1]	1	1	4[1]	4[1]
17	フィリピン	フィリピン国立大学													1	1	1
18	シンガポール	シンガポール国立大学													1(1)[1]	1(1)[1]	1(1)[1]
19	タイ	チュラロンコン大学	1	2	1	1	1	1	0	1	1	2[1]	1	1	1	14[1]	23(2)[4]
20		マヒドン大学					2[1]	1	1	1	1	0	1(1)	0	0	7(1)[1]	
21		モンクット王トンブリ工科大学												1(1)[1]	0	1(1)[1]	
22		タマサート大学												1[1]	0	1[1]	
23	ベトナム	フエ大学								1	0	0	0	0	0	1	3
24		ノンラム大学										1	1	0	0	2	
25	ブラジル	リオディジャネイロ州立大学													1	1	1
26	ペルー	ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学													1	1	1
27	カナダ	マギル大学	6	5	3	3	1	1	0	1	0	2	0	1[1]	0	23[1]	53[6]
28		マックマスター大学			2	2	2	1	1	1	1	1	2[2]	1	2[2]	16[4]	
29		ブリティッシュ・コロンビア大学				1	1	2	2	2	1	1	1	2[1]	1	14[1]	
30	アメリカ合衆国	ワシントン大学	7	4	3	1	2	2	1	0	1	0	2[2]	3(2)[2]	1[1]	27(2)[5]	53(7)[14]
31		カリフォルニア大学			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
32		ナザレスカレッジローチェスター校						1	0	1	0	0	0	1(1)	0	3(1)	
33		ウェズリアンカレッジ						1	0	0	0	1[1]	1[1]	1[1]	0	4[3]	
34		テキサス A&M 大学							3	1	3[1]	0	1	5(1)[3]	3(3)[2]	16(4)[6]	
35		パーデュー大学（工学部）									1	0	0	1	0	2	
36	オーストラリア	オーストラリア国立大学	3	2	1	1(1)	1(1)	0	1(1)	1(1)	1(1)	0	1(1)	1(1)	1(1)[1]	14(8)[1]	35(25)[7]
37		モナシュ大学		2(1)	2(1)	1(1)	1(1)	2(2)	1(1)	1(1)	1(1)	1[1]	1(1)	2(1)[1]	4(4)[4]	19(15)[6]	
38		メルボルン大学							1(1)	1(1)	0	0	0	0	0	2(2)	
39	デンマーク	コペンハーゲン大学				1[1]	2[2]	2[2]	1[1]	0	1[1]	1[1]	0	0	0	8[8]	8[8]
40	フィンランド	オーボアカデミー大学			2	2	1	1	2[1]	3[1]	1	1[1]	3[2]	3[3]	2[2]	21[10]	21[10]
41	フランス	ルイパスツール大学					1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	17[6]
42		ロバート・シューマン大学						1	0	1	0	0	0	0	0	2	
43		ピエール・メンデス大学								1	0	0	0	0	0	1	
44		グルノーブル大学連合									1	1	1[1]	2[2]	1[1]	6[4]	
45		ストラスブール大学連合									1	0	2[1]	2[1]	1	6[2]	
46	ドイツ	オルデンブルグ大学				1[1]	0	0	2[1]	1[1]	1[1]	1[1]	0	0	0	6[5]	17[12]
47		ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学						1	0	1[1]	1	1[1]	1[1]	1	1[1]	7[4]	
48		ミュンヘン工科大学							2[2]	1	1[1]	0	0	0	0	4[3]	
49	ハンガリー	ブダペスト工科・経済大学		1	2(1)	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	10(1)	10(1)
50	イタリア	パドア大学		1	0	2	0	1	0	1	1[1]	0	1[1]	1[1]	0	8[3]	8[3]
51	オランダ	アインホフェン工科大学		1	2	1	1	0	2	0	2[2]	0	0	0	0	9[2]	18(2)[8]
52		グローニンゲン大学								1	0	1	1	2(2)[2]	0	5(2)[2]	
53		デルフト工科大学										1[1]	1[1]	1[1]	1[1]	4[4]	
54	ポーランド	ウッジ工科大学						1	1	1	1	1	1	1	1	8	8
55	ロシア	極東国立総合大学東洋学院			1	1	1	0	0	0	0	0	1[1]	0	0	4[1]	4[1]
56	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学(KTH)							1	1[1]	1[1]	1[1]	1[1]	1[1]	1[1]	7[6]	10[7]
57		ヴェクショー大学								1	1[1]	0	1	0	0	3[1]	
58	連合王国	ロンドン大学		1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5(1)[1]
59		ダーラム大学						1	0	0	0	0	0	0	0	1	
60		ノッティンガム大学												1(1)[1]	0	1(1)[1]	
61	ベルギー	ルーヴァンカトリック大学			1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	4
計	27 ヵ国	61 大学	22	22(1)	26(2)	28(2)[2]	26(2)[3]	27(2)[2]	32(3)[6]	33(3)[4]	32(2)[10]	23[10]	41(4)[25]	49(13)[30]	38(10)[19]	399(44)[111]	

(　)内の数字は当該年の春学期から受け入れた学生数（通常は秋学期から受け入れる）。内数。
[　] 内の数字は JASSO 奨学金をもらっていない学生の数。内数。

表３　学生交流に関する覚書を交わしている外国の大学一覧　（2009 年 3 月 31 日現在）

★印は OUSSEP に在学生を派遣した大学（1996 年－2008 年）を示す

大学間協定

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
6	★	台湾	国立成功大学	National Cheng Kung University	全部局	5
7		台湾	国立清華大学	National Tsing Hua University	全部局	5
8		台湾	国立台湾大学	National Taiwan University	全部局	5
9	★	中国	上海交通大学	Shanghai Jiao Tong University	全部局	5
10	★	中国	西安交通大学	Xi'an Jiao Tong University	全部局	5
11	★	中国	武漢大学	Wuhan University	全部局	5
12	★	中国	南京大学	Nanjing University	全部局	2
13		中国	復旦大学	Fudan University	全部局	3
14		中国	北京大学	Peking University	全部局	5
15		中国	浙江大学	Zhejiang University	全部局	5
16		中国	清華大学	Tsinghua University	全部局	4
17	★	インドネシア	バンドン工科大学	Institut Technologi Bandung	全部局	5
18	★	大韓民国	釜山大学校	Pusan National University	全部局	10
19	★	大韓民国	全南大学校	Chonnam National University	全部局	5
20	★	大韓民国	延世大学校	Yonsei University	全部局	2
21	★	大韓民国	ソウル大学校	Seoul National University	全部局	5
22	全部局(工)	大韓民国	ソウル大学校(工学部)	Seoul National University	全部局（工）	5
23	★	大韓民国	慶尚大学校	Gyeongsang National University	全部局	5
24	★	大韓民国	忠南大学校	Chungnam National University	全部局	5
25		大韓民国	中央大学校	Chung-Ang University	全部局	5
26		大韓民国	昌原大学校	Changwon National University	全部局	5
27	★	モンゴル	モンゴル国立大学	National University of Mongolia	全部局	2
28		フィリピン	デ・ラ・サール大学	De La Salle University	全部局	5
29		フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	Ateneo de Manila University	全部局	3
30	★	フィリピン	フィリピン国立大学	University of the Philippines	全部局	3
31	★	タイ	チュラロンコン大学	Chulalongkorn University	全部局	5
32	★	タイ	マヒドン大学	Mahidol University	全部局	5
33		タイ	マヒドン大学	Mahidol University (Faculty of Science)	全部局(理)	
34	★	タイ	モンクット王トンブリ工科大学	King Mongkut's University of Technology Thonburi	全部局	5
35	★	タイ	タマサート大学	Thammasat University	全部局	5
36		タイ	チェンマイ大学	Chiang Mai University	全部局	5
37		ベトナム	ハノイ国家大学	Vietnam National University Hanoi	全部局	5

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
38	★	ペルー	ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学	Pontifical Catholic University of Peru	全部局	3
39	★	カナダ	マギル大学	McGill University	全部局	5
40	★	カナダ	マックマスター大学	McMaster University	全部局	4
41	★	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	University of British Columbia	全部局	5
42	★	アメリカ合衆国	ワシントン大学	University of Washington	全部局	10
43	★	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	Wesleyan College	全部局	2
44	★	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	Texas A&M University	全部局	5
45	★	アメリカ合衆国	ナザレスカレッジローチェスター校	Nazareth College of Rochester	全部局	5
46	★	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学	University of California	全部局	10
47	★	オーストラリア	オーストラリア国立大学	The Australian National University	全部局	10
48	★	オーストラリア	モナシュ大学	Monash University	全部局	10
49	★	ベルギー	ルーヴァンカトリック大学(Neuve)	Catholic University of Louvain(Neuve)	全部局	5
50	★	デンマーク	コペンハーゲン大学	University of Copenhagen	全部局	5
51	★	フィンランド	オーボアカデミー大学	Abo Akademi University	全部局	5
52	★	フランス	ストラスブール大学（プログラム 8）	University of Strasbourg	全部局	2
53	★	フランス	ストラスブール大学（一般）	University of Strasbourg	全部局	3
54	★	フランス	グルノーブル大学連合	Consortium of Universities in Grenoble	全部局	1
55	★	フランス	ピエール・マリー・キュリー大学	Pierre & Marie Curie University	全部局	3
56		フランス	パリ国立高等化学学院	Ecole Nationale Superieure de Chimie de Paris	全部局	5
57		フランス	日仏共同博士課程フランスコンソーシアム	Consortium Francais du College Doctoral Franco-Japonais(CDFJ)	全部局	30
58	★	ドイツ	ミュンヘン・ルートゥヴィヒ・マクシミリアン大学	Ludwig-Maximilians-University Munich	全部局	5
59	★	ドイツ	ミュンヘン工科大学	Technical University of Munich	全部局	5
60		ドイツ	アーヘン工科大学	RWTH Aachen University	全部局	5
61		ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	Friedrich-Alexander University, Erlangen-Nuernberg(FAU)	全部局	5
62	★	オランダ	デルフト工科大学	Delft University of Technology	全部局	5
63	★	オランダ	グローニンゲン大学	University of Groningen	全部局	5
64		オランダ	グローニンゲン大学(法学部)	University of Groningen	全部局（法）	2
65		スペイン	マドリッドアウトノマ大学	Universidad Autonoma de Madrid	全部局	5
66		スペイン	バリャドリード大学	University of Valladolid	全部局	3
67	★	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学(KTH)	Royal Institute of Technology (KTH)	全部局	3
68		スウェーデン	イェーテボリ大学	University of Gothenburg	全部局	2
69		スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	École Polytechnique Fédérale de Lausanne(EPFL)	全部局	5
70	★	英国	ノッティンガム大学	University of Nottingham	全部局	5
71		カナダ	日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアム	Canada-Japan Stragtegic Student Exchange Program	全部局	15

部局間協定

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
1		英国	マンチェスター大学（人文学部）	The University of Manchester (Faculty of Humanities)	文学研究科	3
2		フランス	パリ・ラヴィレット建築エコール	Ecole d'Architecture de Paris La Villette	文学研究科・文学部 工学研究科・工学部	2
3		オーストラリア	アデレード大学(人文社会学部)	University of Adelaide	人間科学部・人間科学研究科	協議
4	★	スウェーデン	ヴェクショー大学	University of Vaxjo	人間科学部・人間科学研究科	3
5		中国	華東政法大学	East China University of Politics and Law	法学研究科・法学部・高等司法研究科	2
6	★	大韓民国	嶺南大学校（法科大学、大学院公・司法学科）	Yeungnam University	法学研究科・法学部・高等司法研究科	5
7		大韓民国	建国大学校(法科大学)	Konkuk University	法学研究科・法学部・高等司法研究科・国際公共政策研究科	3
8		ブラジル	リオデジャネイロ州立大学	Rio de Janeiro State University	法学研究科・法学部・高等司法研究科	1
9		台湾	国立成功大学（管理学院・社会科学院）	National Cheng Kung University	経済学研究科・経済学部	3
10		カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学（ソーダー経営学部）	The University of British Columbia (UBC Sauder School of Business)	経済学部	5
11		フランス	パリ商科大学（経営ヨーロッパ学部）	Ecole Superieure de Commerce de Paris-EAP	経済学研究科・経済学部	5
12	★	英国	ロンドン大学（東洋アフリカ学院）	University of London	経済学部・経済学研究科	2
13		中国	華南理工大学（材料科学与工程学院）	South China university of Technology	理学研究科・理学部	5
14		台湾	国立交通大学（理学院）	National Chiao Tung University	理学研究科・理学部	3
15		英国	ワーウィック大学	University of Warwick	理学研究科・理学部	1
16		ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー（物理エレクトロミクス研究所）	Vietnamese Academy Of Science and Technology (Institute of Physics and Electronics)	理学研究科・理学部	3
17		ドイツ	ルートゥヴィッヒ・マクシミリアン大学(化学・薬学部)	Ludwig-Maximilians-University Munich	理学研究科・理学部	協議
18		イタリア	ペルージャ大学	Universita degli Studi di Perugia	理学研究科・理学部	3
19	★	オランダ	アインホフェン工科大学（化学部・化学工学部・生体医療工学部）	Eindhoven University of Technology	理学研究科・理学部	5
20		ロシア	モスクワ国立大学（物理学部、化学部）	Moscow State University	理学研究科・理学部	5
21		ロシア	サンクトペテルスブルク工科大学（物理学部）	St. Petersburg State Technical University	理学研究科・理学部	5
22		中国	同済大学（医学院）	Tongji University	医学系研究科	5
23		中国	中国医科大学	China Medical University	医学系研究科	4
24		大韓民国	梨花女子大学校（医学研究科・医学部）	Ewha Womans University	医学系研究科・医学部	3
25		大韓民国	梨花女子大学校(看護学部)	Ewha Womans University	医学系研究科・医学部	2
26		マレーシア	マレーシアサラワク大学	Universiti Malaysia Sarawak	医学系研究科・医学部	5
27		フィンランド	オウル大学（医学部、看護保健管理学科）	The University of Oulu	医学部	5
28		大韓民国	慶北大学校（歯科大学）	Kyungpook National University	歯学研究科・歯学部	5
29		トルコ	アンカラ大学　（歯学部）	Ankara University	歯学研究科	5
30		中国	中国科学院理化技術研究所	Technical Institute of Physics and Chemistry Chinese Academy of Sciences	工学研究科	5
31		中国	南開大学（化学学院）	Nankai University	工学研究科・工学部	3
32		中国	吉林大学（電子科学工程学院）	Jilin Jinversity	工学研究科・工学部	5
33		中国	天津大学大学院	Graduate School Tianjin University	工学研究科・工学部	5

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
34	★	インドネシア	ガジャマダ大学（工学部）	Gajah Mada University	工学研究科・工学部	5
35		大韓民国	中央大学校（工科大学）	Chung-Ang University	工学研究科・工学部	5
36		大韓民国	朝鮮大学校（工科大学）	Chosun University	工学研究科・工学部	5
37		大韓民国	国立昌原大学校（工科大学）	Changwon National University	工学研究科・工学部	3
38		大韓民国	国民大学校（自然科学部）	Kookmin University (College of Natural Sciences)	工学研究科・工学部	3
39		大韓民国	金烏工科大学校	Kumoh National Institute of Technology	工学研究科・工学部	3
40		ネパール	トリブバン大学（工学研究科、工学部）	Tribhuvan University	工学研究科・工学部	5
41		フィリピン	フィリピン大学ディリマン校	University of the Philippines in Diliman	工学研究科・工学部	5
42	★	ベトナム	フエ大学(科学大学)	Hue University	工学研究科・工学部	5
43		ベトナム	ホーチミン市国家大学(工科大学)	Vietnam National University, Ho Chi Minh City	工学研究科・工学部	5
44		ベトナム	ハノイ土木大学	Hanoi University of Civil Engineering	工学研究科・工学部	5
45		ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー（生物工学センター）	Vietnamese Academy of Science and Technology	工学研究科	5
46		ベトナム	ホーチミン市国家大学(環境資源研究所)	Vietnam National University of Ho Chi Minh City	工学研究科	5
47	★	ベトナム	ノンラム大学	Nong Lam University	工学研究科・工学部	2
48		ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学（建築都市計画部）	Federal University of Rio De Janeiro	工学研究科・工学部	2
49		モロッコ	アルアハウェイン大学（理工学部）	Al Akhawayn University	工学研究科・工学部	5
50	★	アメリカ合衆国	パーデュー大学　（工学部）	Purdue University	工学研究科・工学部	5
51		アメリカ合衆国	ヒューストン大学(理学部)	University of Houston	工学研究科・工学部	3
52		オーストラリア	スインバーン工科大学（工学・産業科学部）	Swinburne University of Technology	工学研究科・工学部	5
53		ベルギー	リエージュ大学（応用理工学部・応用理工学研究科）	University of Liege	工学研究科・工学部	5
54		ベルギー	ルーヴァンカトリック大学（理学部）	Katholieke Universiteit Leuven (KULeuven)	工学研究科・工学部	5
55		フランス	カシャン高等師範大学校	Ecole Normale Superieure de Cachan	工学研究科・工学部	3
56	★	ドイツ	オルデンブルグ大学（物理学部並びに心理学部）	Oldenburg University	工学研究科・工学部	5
57		ドイツ	コブレンツ－ランダウ大学（コンピュータ科学研究科）	Universitat Koblenz-Landau	工学研究科・工学部	3
58		ドイツ	ビーレフェルト大学（テクノロジー学部）	Bielefeld University (Faculty of Technology)	工学研究科・工学部	10
59	★	ハンガリー	ブダペスト工科・経済大学	Budapest University of Technology & Economics	工学研究科・工学部	5
60	★	イタリア	パドア大学	University of Padova	工学研究科・工学部	5
61		イタリア	聖アンナ高等大学（国際工学研究科）	Scuola Superiore Sant' Anna	工学研究科	3
62	★	ポーランド	ウッジ工科大学	Technical University of Lodz	工学研究科・工学部	5
63		英国	オックスフォード大学(工学部)	University of Oxford	工学研究科・工学部	5
64		英国	ストラスクライド大学(工学部)	University of Strathclyde	工学研究科・工学部	5
65		中国	上海マイクロシステム情報技術研究所	Shanghai Institute of Microsystem and Information Technology	基礎工学研究科・基礎工学部	3
66		中国	大連理工大学(土木・水利工学部)	Dalian University of Technology	基礎工学研究科	5
67	★	中国（香港）	香港科学技術大学（理学部）	Hong Kong University of Science and Technology	基礎工学研究科・基礎工学部	3

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
68	★	大韓民国	東亜大学校（工科大学）	Dong-A University	基礎工学研究科・基礎工学部	3
69		大韓民国	昌原大学校（工科大学）	Changwon National University	基礎工学研究科・基礎工学部	3
70		ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー(物質科学研究所)	Vietnamese Academy of Science and Technology	基礎工学研究科	2
71		ベトナム	ホーチミン市国家大学(理科大学)	Vietnam National University Ho Chi Minh City	基礎工学研究科・基礎工学部	3
72		ベトナム	ハノイ国家大学　工科大学・ベトナム科学技術アカデミー（物質科学研究所）	Vietnam National University of Hanoi (College of Technology) Vietnamese Academy of Science and Technology (Institute of Materials Science)	基礎工学研究科	MC15 DC15
73		マレーシア	マレーシア工科大学	Universiti Teknologi Malaysia	基礎工学研究科・太陽エネルギー化学研究センター	5
74		ドイツ	ハンブルグ大学（物理学部）	University of Hamburg	基礎工学研究科・基礎工学部	2
75		ドイツ	アウグスブルグ大学（数理学部）	University of Augsburg	基礎工学研究科・基礎工学部	2
76		ドイツ	カールスルーヘ大学（理学部）	Universitat Karlsruhe	基礎工学研究科	5
77		ルーマニア	アレクサンドル・イワン・クザ大学(物理学部)	Alexandru Ioan Cuza University	基礎工学研究科・基礎工学部	3
78		スイス	チューリッヒ大学（理学部）	University of Zurich (Faculty of Science)	基礎工学研究科	2
79	★	シンガポール	シンガポール国立大学（工学部）	National University of Singapore	基礎工学研究科・基礎工学部	2
80		アメリカ合衆国	サウスカロライナ大学（工学部）	University of South Carolina	基礎工学研究科・基礎工学部	5
81		ドイツ	ドルトムント大学（物理学部）	University of Dortmund	基礎工学研究科・基礎工学部	3
82		フィンランド	オウル大学（理学部情報処理科学科）	University of Oulu(Department of Information Processing Science)	基礎工学研究科・基礎工学部	5
83		デンマーク	コペンハーゲン大学	University of Copenhagen	言語文化研究科	2
84	★	ロシア	極東国立総合大学（東洋学院）	Far-Eastern State University	言語文化研究科	2
85		ロシア	ウラジオストク国立経済サービス大学(国際関係論学科)	Vladivostok State University of Economics and Service	言語文化研究科	2
86		ドイツ	ベルリン自由大学（化学研究所）	Freie Universitaet Berlin	生命機能研究科	3
87		スペイン	国立心臓血管研究センター	Centro Nacional De Investigaciones Cardiovasculares	生命機能研究科	3
88		英国	クランフィールド大学院大学（保健衛生研究科）	Cranfield Health, Cranfield University	生命機能研究科	3
89		エジプト	アインシャムス大学（工学部）	Ain Shams University	情報科学研究科	2
90		ニュージーランド	カンタベリー大学（工学部）	The University of Canterbury	情報科学研究科	2
91		ドイツ	ワイマール・バウハウス大学(メディア学部)	Bauhaus－Universitat Weimar	情報科学研究科	5
92		大韓民国	高麗大学校通信数学研究センター	Korea University	情報科学研究科	5
93		ベルギー	汎大学マイクロエレクトロニクスセンター	Interuniversitair Micro-Elektronica Centrum Vzw	情報科学研究科	5
94		デンマーク	南デンマーク大学（理学部）	University of Southern Denmark (Faculty of Science)	情報科学研究科	2
95		シンガポール	南洋工科大学（コンピュータ工学部）	Nanyang Tecnological University (School of Computer Engineering)	情報科学研究科 サイバーメディアセンター	2.5
96		英国	マンチェスター大学（生物科学部）	University of Manchester	蛋白質研究所・理学研究科・理学部	3
97		英国	ロンドン大学（東洋アフリカ研究学院）	University of London (School of Oriental and African Studies)	外国語学部　世界言語研究センター　日日センター	2
98		スイス	チューリヒ大学	University of Zurich	言語文化研究科・外国語学部・日本語日本文化教育センター	2
99		タイ	コーンケーン大学（人文社会学部）	Khon Kaen University	言語文化研究科・外国語学部・世界言語研究センター	3
100		タイ	シラパコーン大学（文学部）	Silpakorn University	言語文化研究科・外国語学部・世界言語研究センター	3
101		アメリカ合衆国	ジョージア大学	University of Georgia	言語文化研究科・外国語学部	1

No.		国名・地域名	相手大学名	大学(英文)	学部・研究科名	交換枠
102		ニュージーランド	ウェリントン・ヴィクトリア大学	Victoria University of Wellington	外国語学部・言語文化研究科・日本語日本文化教育センター	3
103		シリア	ダマスカス大学	Damascus University	言語文化研究科・外国語学部	5
104		チュニジア	カルタゴ11月7日大学	University of 7 November at Carthage	言語文化研究科・外国語学部	2?
105		エジプト	カイロ大学	Cairo University	言語文化研究科・外国語学部	5?
106		ペルー	聖心女子大学	University of the Sacred Heart	外国語学部	2?
107		アメリカ合衆国	ジョージア州立大学（人文学部）	Georgia State University (College of Arts and Sciences)	言語文化研究科・外国語学部	1?
108		ドイツ	デュッセルドルフ大学人文学部	Heinrich-Heine-University Duesseldorf Faculty of Arts	外国語学部	1?
109		ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール　カルビン派大学	Gaspar Karoli University of the Reformed Church	言語文化研究科・外国語学部	1
110		ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学	Eotvos Lorand University	言語文化研究科・外国語学部・世界言語研究センター	1
111		フランス	リール政治学院	Lille Institute of Political Studies	外国語学部	2
112		フランス	プロヴァンス大学(エクス-マルセイユ第1大学)	Provence University (Aix-Marseille Ⅰ)	言語文化研究科・外国語学部・世界言語研究センター	2
113		ベトナム	ハノイ外国語大学→ハノイ大学（名称変更）	Hanoi Foreign Language College	外国語学部	4?
114		ベトナム	ホーンバーン大学	Hong Bang University	外国語学部	5?
115		ポルトガル	リスボン新大学	Lisbon New University	外国語学部	1?
116		スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	University of Santiago de Compostela	外国語学部・世界言語研究センター	2
117		ロシア	ウラル国立大学	Ural State University	言語文化研究科・外国語学部	2
118		中国	北京語言大学（大学院・漢語学院）	Beijing Language and Culture University	言語文化研究科・外国語学部	2
119		中国	北京師範大学	Beijing Normal University	外国語学部	2
120		中国	華中師範大学	Huazhong Normal University	言語文化研究科・外国語学部	2
121		中国	深?大学	Shenzhen University	言語文化研究科・外国語学部	2
122		大韓民国	世宗大学校	Sejong University	言語文化研究科・外国語学部・世界言語研究センター	5
123		大韓民国	慶熙大学	Kyung Hee University	外国語学部	5
124		フランス	トゥールーズ・ル・ミライユ大学	University of Toulouse-le Mirail	言語文化研究科・外国語学部・日本語日本文化教育センター	2
125		ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	Katholieke Universiteit Leuven (KULeuven)	言語文化研究科・外国語学部	2
126		オーストリア	ウィーン大学	University of Vienna	言語文化研究科・外国語学部・日本語日本文化教育センター	2
127	★	ブラジル	リオディジャネイロ州立大学	Rio de Janeiro State University	言語文化研究科・外国語学部・日本語日本文化教育センター	2
128		ベトナム	ホーチミン市師範大学	Hochiminh City University of Pedagogy	言語文化研究科・外国語学部	5

表4　2008年度 2学期 OUSSEP 国際交流科目時間割　Second Semester (Fall Semester) of 2008 International Exchange Subjects Timetable

開講所属 Subject's Affiliation	時間割コード Curriculum code	開講学期 Semester	授業科目名 Subject's name	単位 Credits	曜日 Day(s)	時限 Period	担当教員 Instructor	キャンパス Campus	講義室 Room	Map No.	履修 Registration	備考 Notes
留学生センター International Student Center	700096	2	日本語 JA100 Japanese JA100	3	月 Mon	1	スミス　朋子　講師 Tomoko SMITH	吹田 Suita	IC ホール　講義室　5 IC Hall　Room5		KOAN 登録 Online registration	❀ 週 3 コマ開講
					火 Tue	1	難波　康治　准教授 Koji NAMBA	豊中 Toyonaka	共通教育　イ号館一 47 IHERP E47	2		
					金 Fri	1	スミス　朋子　講師 Tomoko SMITH	吹田 Suita	IC ホール　講義室　5 IC Hall　Room5			
留学生センター International Student Center	700106	2	日本語 JA200 Japanese JA200	3	月 Mon	1	高橋　朋子　講師 Tomoko TAKAHASHI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　2 IC Hall　Room2		KOAN 登録 Online registration	❀ 週 3 コマ開講 3 classes per week
					木 Thu	1	高橋　朋子　講師 Tomoko TAKAHASHI	豊中 Toyonaka	共通教育　A312 IHERP A312	2		
					金 Fri	1	大谷　晋也　准教授 Shinya OTANI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　2 IC Hall　Room2			
留学生センター International Student Center	700107	2	日本語 JA300 Japanese JA300	3	月 Mon	1	西口　光一　教授 Koichi NISHIGUCHI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　3 IC Hall　Room3		KOAN 登録 Online registration	❀ 週 3 コマ開講 3 classes per week
					木 Thu	1	新庄　あいみ　講師 Aimi SHINJO	豊中 Toyonaka	共通教育　イ号館一 48 IHERP E48	2		
					金 Fri	1	西口　光一　教授 Koichi NISHIGUCHI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　4 IC Hall　Room4			
留学生センター International Student Center	700108	2	日本語 JA400 Japanese JA400	3	月 Mon	1	三牧　陽子　教授 Yoko MIMAKI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　6 IC Hall　Room6		KOAN 登録 Online registration	週 3 コマ開講 3 classes per week
					火 Tue	1	藤澤　好恵　講師 Yoshie FUJISAWA	豊中 Toyonaka	共通教育　イ号館一 48 IHERP E48	2		
					金 Fri	1	三牧　陽子　教授 Yoko MIMAKI	吹田 Suita	IC ホール　講義室　6 IC Hall　Room6			
留学生センター International Student Center	700055	2	日本のメディアとコミュニケーション Media and Communications in Japan	2	月 Mon	2	近藤　佐知彦　教授 Sachihiko KONDO	吹田 Suita	IC ホール　講義室　5 IC Hall　Room5		KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700220	2	先端科学技術のための応用物理 Applied Physics for Advanced Science and Technology	2	月 Mon	4	菅原　康弘　教授 Yasuhiro SUGAWARA	吹田 Suita	工学部　U2-212 Engineering　U2-212	4-U2	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700067	2	日本における言語と文化の多様性 Linguistic and Cultural Diversity in Japan	2	火 Tue	2	川村　邦光　教授 Kunimitsu KAWAMURA	豊中 Toyonaka	～Nov. 1 8 共通教育　B108 IHERP　B108 Nov.25～ 共通教育　C105 IHERP　C105	2	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700227	2	グローバル経済政策イッシュー Policy Issues in the Global Economy	2	火 Tue	3	高阪　章　教授 Akira KOHSAKA	豊中 Toyonaka	OSIPP 棟研究室 D OSIPP Room D	8	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700040	2	エレクトロニクスへの招待 Invitation to Electronics	2	火 Tue	5	金島　岳　准教授 Takeshi KANASHIMA	豊中 Toyonaka	基礎工学部　A304 Engineering Science　A304	12	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700223	2	日本の近代化：1868年から1905年まで Modernization of Japan since 1868 until 1905	2	水 Wed	3	嶋本　隆光　教授 Takamitsu SHIMAMOTO	箕面 Minoh	日日センター棟　1313 教室 CJLC　1313	2	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700224	2	日本の国民国家 The Japanese Nation-State	2	水 Wed	4	David Uva　講師 David UVA	箕面 Minoh	日日センター棟　1313 教室 CJLC　1313	2	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	702216	2	数学する楽しみ Joy of Doing Math	2	木 Thu	2	菊池　和徳　講師 Kazuniri KIKUCHI	豊中 Toyonaka	理学部　E215 Science　E215	15	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700232	2	日本とアジア・アフリカ Japan and the Afro-Asian countries	2	木 Thu	3	松田　武　教授 Takeshi MATSUDA	箕面 Minoh	外国語学部　A303 Foreign Studies　A303	1	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700209	2	近代日本文学（戦前） Modern Japanese Literature(Pre-war)	2	木 Thu	4	村上　スミス・アンドリュー　准教授 Andrew MURAKAMI-SMITH	豊中 Toyonaka	理学部　B308 Science　B308	15	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700219	2	社会変動論 Theories of Social Change	2	金 Fri	2	山本　ベバリー　アン　講師 Beverley Anne YAMAMOTO	吹田 Suita	人間科学部　東館 106 講義室 Human Sciences　East 106	22	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700043	2	薬学入門 Introduction to Pharmaceutical Sciences	2	金 Fri	3	平田　收正　教授 Kazumasa HIRATA	吹田 Suita	IC ホール　講義室　5 IC Hall　Room5		KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700035	2	地球総合工学入門-大いなる建造物をつくる原理の最初の一歩- Introduction to Global Architecture -First Steps for Building Something Great-	2	金 Fri	5	梅田　直哉　准教授 Naoya UMEDA	吹田 Suita	工学部　U1W-618 Engineering　U1W-618	4-U1W	KOAN 登録 Online registration	❀
留学生センター International Student Center	700011	2	自主研究Ⅰ－A Independent Study Ⅰ-A	2								❀
留学生センター International Student Center	700012	2	自主研究Ⅰ－B Independent Study Ⅰ-B	3								❀
留学生センター International Student Center	700013	2	自主研究Ⅰ－C Independent Study Ⅰ-C	4								❀

IHERP: Institute for Higher Education Research and Practice
❀: The subject which is includable in OUSSEP completion.

OSIPP: Osaka School of International Public Policy
シラバス/Syllabus　KOAN　log in:

表5

時限	時間	月 吹田キャンパス	火 豊中キャンパス	水	木 豊中キャンパス	金 吹田キャンパス
I	8:50 | 10:20	日本語 JA （100, 200, 300, 400） 《留学生センター》	日本語 JA （100, 400） 《留学生センター》		日本語 JA （200, 300） 《留学生センター》	日本語 JA （100, 200, 300, 400） 《留学生センター》
		100：スミス　朋子 講師 200：高橋　朋子 講師 300：西口　光一 教授 400：三牧　陽子 教授	100：難波　康治 准教授 400：藤澤　好恵 講師		200：高橋　朋子 講師 300：新庄　あいみ 講師	100：スミス　朋子 講師 200：大谷　晋也 准教授 300：西口　光一 教授 400：三牧　陽子 教授
		IC ホール 2F 100：講義室　5 200：講義室　2 300：講義室　3 400：講義室　6	100：共通教育　イ号館ー46 400：共通教育　イ号館ー48		200：共通教育　A312 300：共通教育　イ号館ー48	IC ホール 2F 100：講義室　5 200：講義室　2 300：講義室　4 400：講義室　6
II	10:30 | 12:00	日本のメディアとコミュニケーション 《留学生センター》	日本における言語と文化の多様性 《文学部》		数学する楽しみ 《理学部》 菊池　和徳 講師	社会変動論 《人間科学部》
		近藤　佐知彦 准教授	川村　邦光 教授		理学部　E215 近代日本文学（戦前） 《言語文化研究科》	山本 ベバリー アン 講師
		IC ホール 講義室 5	共通教育　B108		村上　スミス・アンドリュー 准教授 共通教育　B207	人間科学部 東館 106 講義室
III	13:00 | 14:30		グローバル経済政策イッシュー 《国際公共政策研究科》	日本の近代化：1868 年から 1905 年まで 《日日センター》	日本とアジア・アフリカ 《外国語学部》	薬学入門 《薬学部》
			高阪　章 教授	嶋本　隆光 教授	松田　武 教授	平田　收正 教授
			ＯＳＩＰＰ棟演習室Ｄ	日日センター棟　1313	外国語学部　A303	IC ホール 講義室　5
IV	14:40 | 16:10	先端科学技術のための応用物理 《工学部》		日本の国民国家 《日日センター》		
		菅原　康弘 教授		David Uva 講師		
		工学部　U2-212		日日センター棟　1313		
V	16:20 | 17:50		エレクトロニクスへの招待 《基礎工学部》			地球総合工学入門-大いなる建造物をつくる原理の最初の一歩- 《工学部》
			金島　岳 准教授			梅田　直哉 准教授
			基礎工学部 A304			工学部　U1W-618

（注）授業実施場所は、都合により変更する場合がある。
網がけ授業は箕面キャンパス

表６　学部別：OUSSEP 外学生の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	人科	外	法	経済	理	医	歯	薬	工	基工	言語	国公	情報	生命	高司	計	G/R
1996 秋	0 (0)	4 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (3)	0 (0)		0 (0)				21 (3)	0.14
1997 春	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	0 (0)		0 (0)				4 (3)	0.75
1997 秋	9 (2)	6 (0)		5 (0)	3 (0)	12 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	6 (0)		0 (0)				47 (6)	0.13
1998 春	3 (0)	2 (1)		3 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)		0 (0)				18 (4)	0.22
1998 秋	0 (0)	3 (0)		1 (0)	3 (0)	19 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	2 (0)		0 (0)				33 (11)	0.33
1999 春	4 (1)	1 (0)		7 (2)	4 (1)	18 (4)	7 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (2)	10 (0)		0 (0)				60 (12)	0.20
1999 秋	7 (4)	19 (0)		6 (0)	9 (5)	17 (4)	4 (3)	0 (0)	3 (0)	20 (1)	4 (1)		0 (0)				89 (18)	0.20
2000 春	8 (3)	1 (0)		7 (2)	20 (12)	6 (2)	10 (1)	0 (0)	1 (1)	23 (4)	6 (1)		2 (0)				84 (26)	0.31
2000 秋	4 (0)	26 (5)		5 (0)	5 (3)	2 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (4)	6 (4)		0 (0)				82 (16)	0.20
2001 春	10 (6)	6 (1)		4 (1)	8 (4)	7 (4)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (1)	10 (3)		0 (0)				67 (20)	0.30
2001 秋	7 (5)	17 (1)		6 (3)	32 (21)	19 (8)	7 (2)	0 (0)	1 (0)	7 (1)	5 (4)		1 (1)				102 (46)	0.45
2002 春	9 (3)	13 (3)		1 (0)	17 (4)	6 (4)	6 (1)	1 (0)	0 (0)	17 (6)	8 (4)		0 (0)	2 (0)			80 (25)	0.31
2002 秋	14 (7)	7 (2)		2 (0)	10 (3)	8 (7)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	17 (2)	5 (3)		0 (0)	1 (0)			66 (25)	0.38
2003 春	1 (1)	11 (4)		3 (2)	13 (5)	6 (3)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	24 (10)	5 (2)		0 (0)	0 (0)			69 (33)	0.48
2003 秋	11 (1)	2 (0)		1 (0)	25 (24)	7 (6)	4 (4)	0 (0)	4 (2)	27 (15)	7 (3)		0 (0)	0 (0)			88 (55)	0.63
2004 春	6 (3)	7 (3)		14 (5)	19 (9)	13 (10)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	17 (6)	8 (3)		0 (0)	0 (0)			90 (40)	0.44
2004 秋	11 (6)	9 (9)		4 (2)	1 (1)	8 (4)	4 (1)	0 (0)	3 (3)	25 (16)	12 (8)		0 (0)	0 (0)	5 (0)	1 (1)	83 (51)	0.61
2005 春	11 (7)	12 (7)		5 (0)	10 (9)	6 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (15)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (0)	71 (43)	0.61
2005 秋	10 (3)	3 (3)		5 (1)	22 (18)	6 (3)	4 (3)	0 (0)	4 (0)	10 (10)	14 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	78 (49)	0.63
2006 春	11 (8)	6 (3)		7 (1)	37 (31)	1 (0)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	6 (4)	14 (8)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	89 (61)	0.69
2006 秋	5 (3)	21 (9)		3 (2)	11 (6)	5 (3)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (1)	11 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	63 (34)	0.54
2007 春	12 (13)	22 (13)		7 (5)	9 (7)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (5)	4 (5)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	68 (51)	0.75
2007 秋	9 (6)	26 (18)	2 (1)	5 (2)	23 (19)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	30 (17)	5 (4)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	109 (70)	0.64
2008 春	6 (3)	25 (18)	12 (2)	14 (7)	10 (11)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (12)	12 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	102 (63)	0.62
2008 秋	15 (7)	17 (11)	57 (20)	8 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (1)	12 (9)	5 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	122 (52)	0.43
合計	183 (92)	266 (111)	71 (23)	123 (37)	294 (194)	179 (78)	80 (30)	2 (0)	25 (14)	364 (150)	166 (79)	8 (3)	4 (2)	10 (3)	7 (0)	3 (1)	1785 (817)	0.46

（　）内の数字は単位取得者数を表す。
G/R は、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。